

# ECALGA

## 技術情報交換 実証実験報告

ECM委員会

JEITA  
EC CENTER

ECALGA

# — 目 次 —

1. 実証実験の目的
2. 参加企業
3. システム構成
4. 全体スケジュール
5. 実施シナリオ(接続)
  - 5-1: 詳細
  - 5-2,3: シナリオ例
6. (まとめ)
  - 6-1,2: 課題・要望に対する対応策
  - 6-3: 考察
7. 今後の活動

# 1. 実証実験の目的

## ■ B to B 情報交換環境の検証

- ASP間連携およびASP-コンテンツサービス  
経路による情報交換機能の検証
- 新ECALGA標準による情報交換の検証

## ■ 情報交換のための支援ツール類の検証

## 2. 参加企業

### ＜バイヤ＞

- ・ソニー株式会社
- ・キヤノン株式会社
- ・富士通株式会社
- ・三菱電機株式会社

### ＜サプライヤ＞

- ・アルプス電気株式会社
- ・TDK株式会社
- ・株式会社 村田製作所

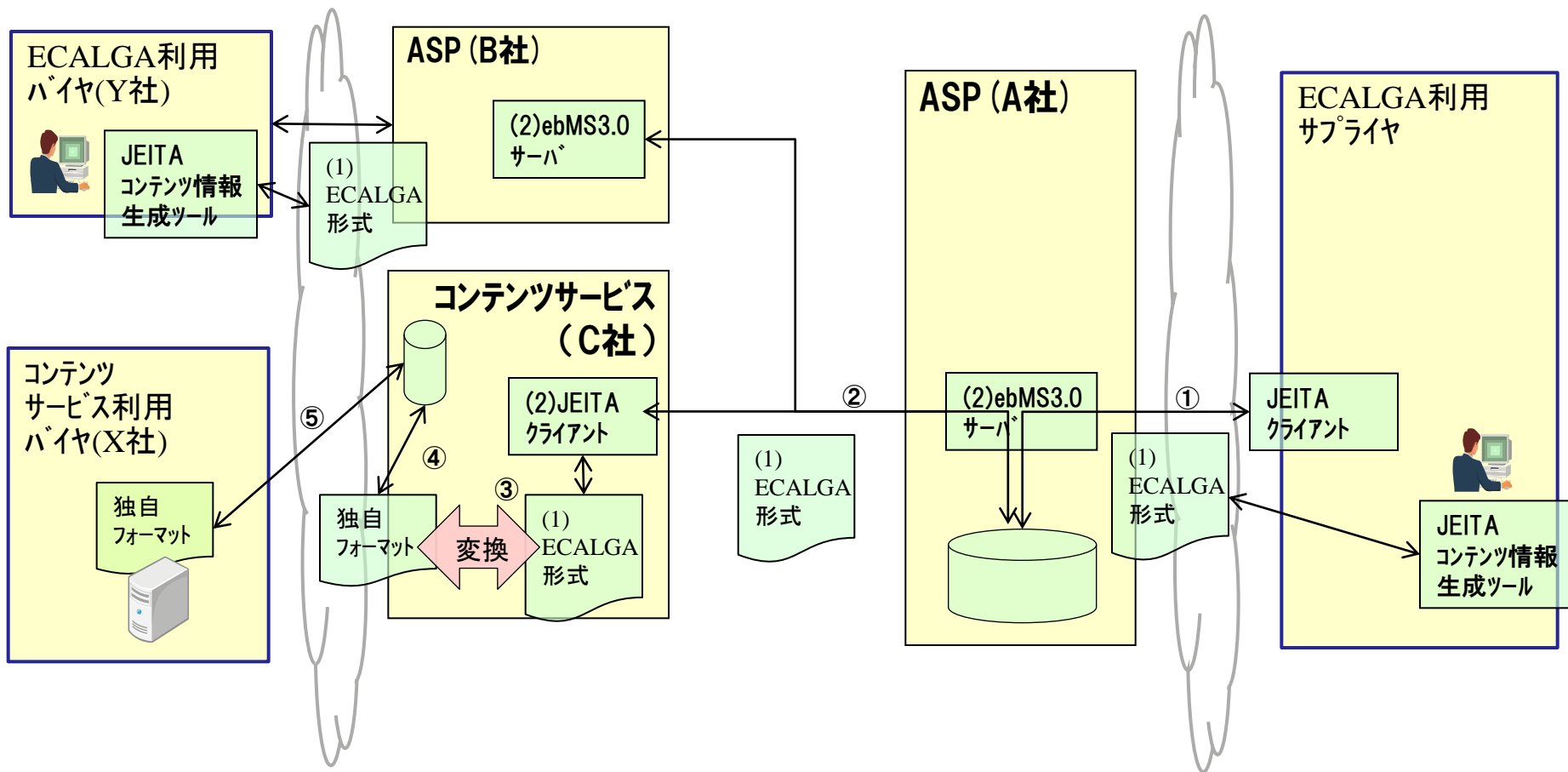
### ＜ASP＞

- ・株式会社 日立製作所
- ・日本電気株式会社

### ＜コンテンツサービス＞

- ・株式会社 豊通エレクトロニクス

# 3. システム構成



(1)ASP間で交換するデータは、JEITA/ECALGA形式

(2)ASP間の通信手順は、ebMS3.0サーバ、もしくはJEITA共通クライアントを利用して連携

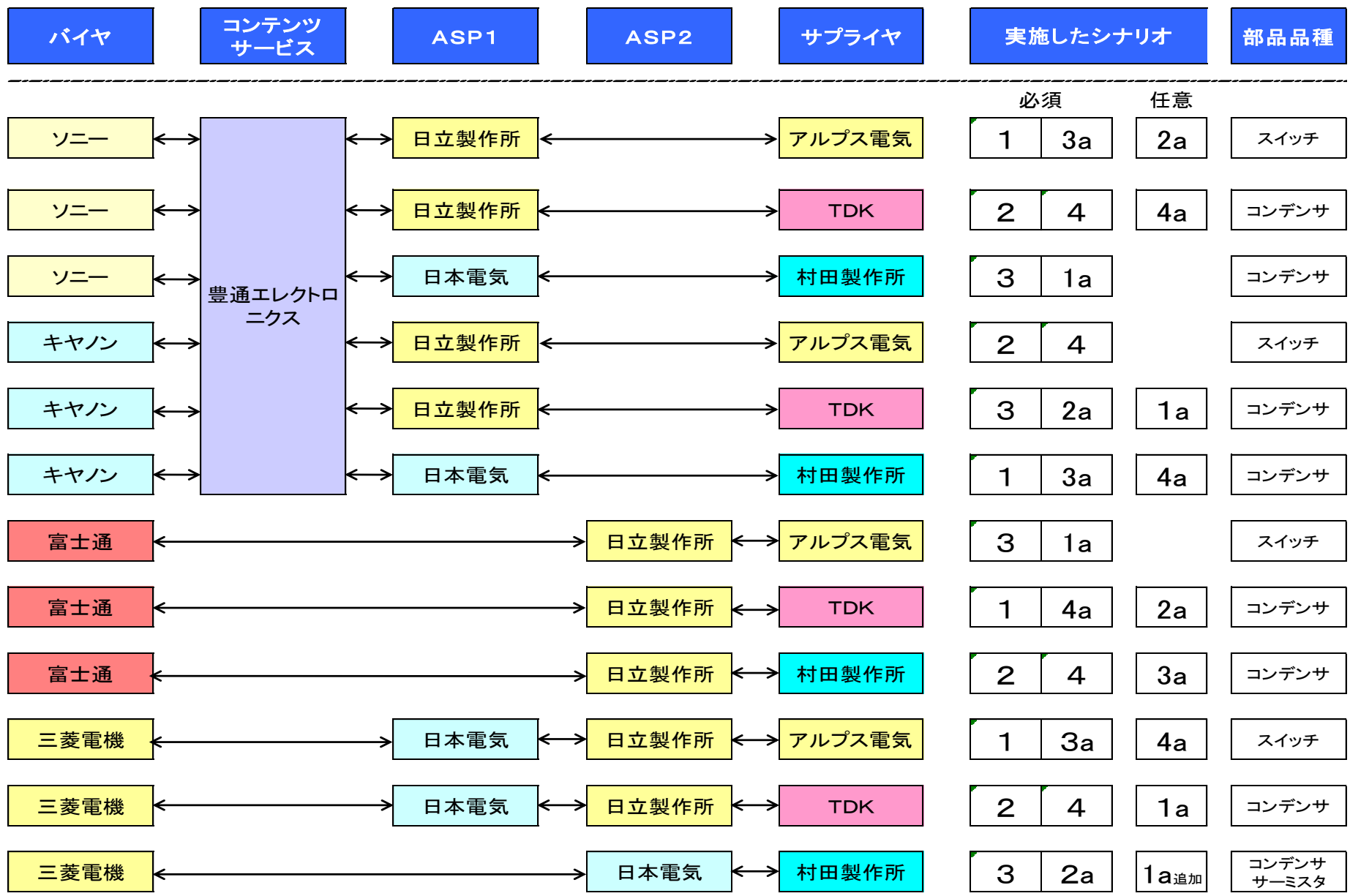
@ Hitachi , Ltd. 2012. All rights reserved.

# 4. 全体スケジュール

2013

項目	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	9月
企画部会提案・承認	▼ 4日								
参加企業募集	↔ 5日 18日								
参加企業確定								▼ 19日	
シナリオ作成 環境構築等		←→			3/8				
実証実験				↔ 3/11 4/5					
検証・評価					←→				
報告書取り纏め						←→			
企画部会			▼ 状況報告(2/5)		▼ 中間報告(4/16)			▼ 中間報告(7/11)	▼ 最終報告(9/12)
実用化検討								←→	←→

# 5. 実施シナリオ (接続)



# 5-1. 実施シナリオ(詳細)

## バイヤからの依頼に基づくシナリオ

シナリオ 1 ⇒ バイヤからの部品検索(基本型)

シナリオ 1a ⇒ バイヤからの部品検索(拡張型)

シナリオ 2 ⇒ バイヤからの生産中止確認(基本型)

シナリオ 2a ⇒ バイヤからの生産中止確認(拡張型)

## サプライヤからの依頼に基づくシナリオ

シナリオ 3 ⇒ サプライヤからの新製品情報(基本型)

シナリオ 3a ⇒ サプライヤからの新製品情報(拡張型)

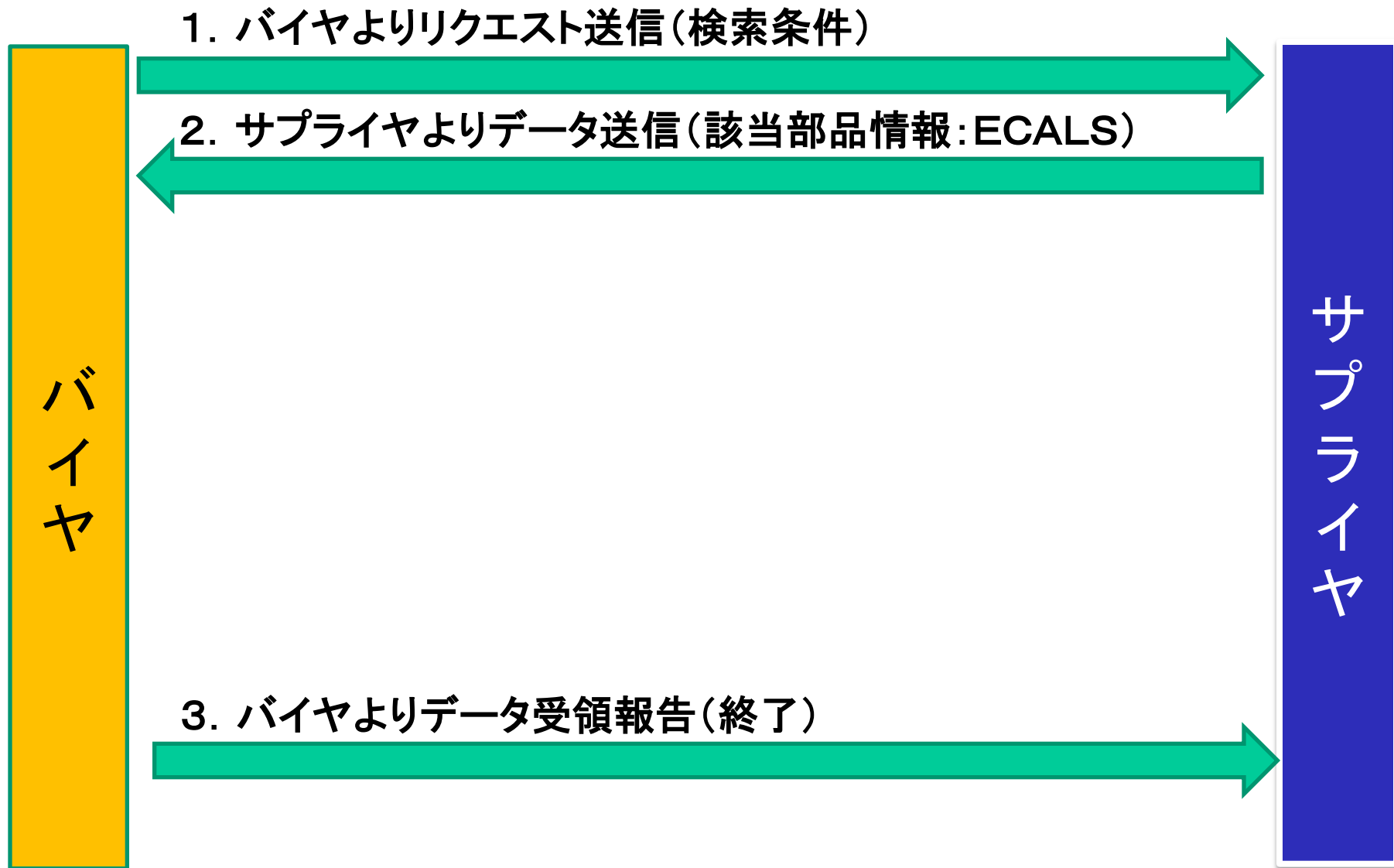
シナリオ 4 ⇒ サプライヤからの生産中止情報(基本型)

シナリオ 4a ⇒ サプライヤからの生産中止情報(拡張型)

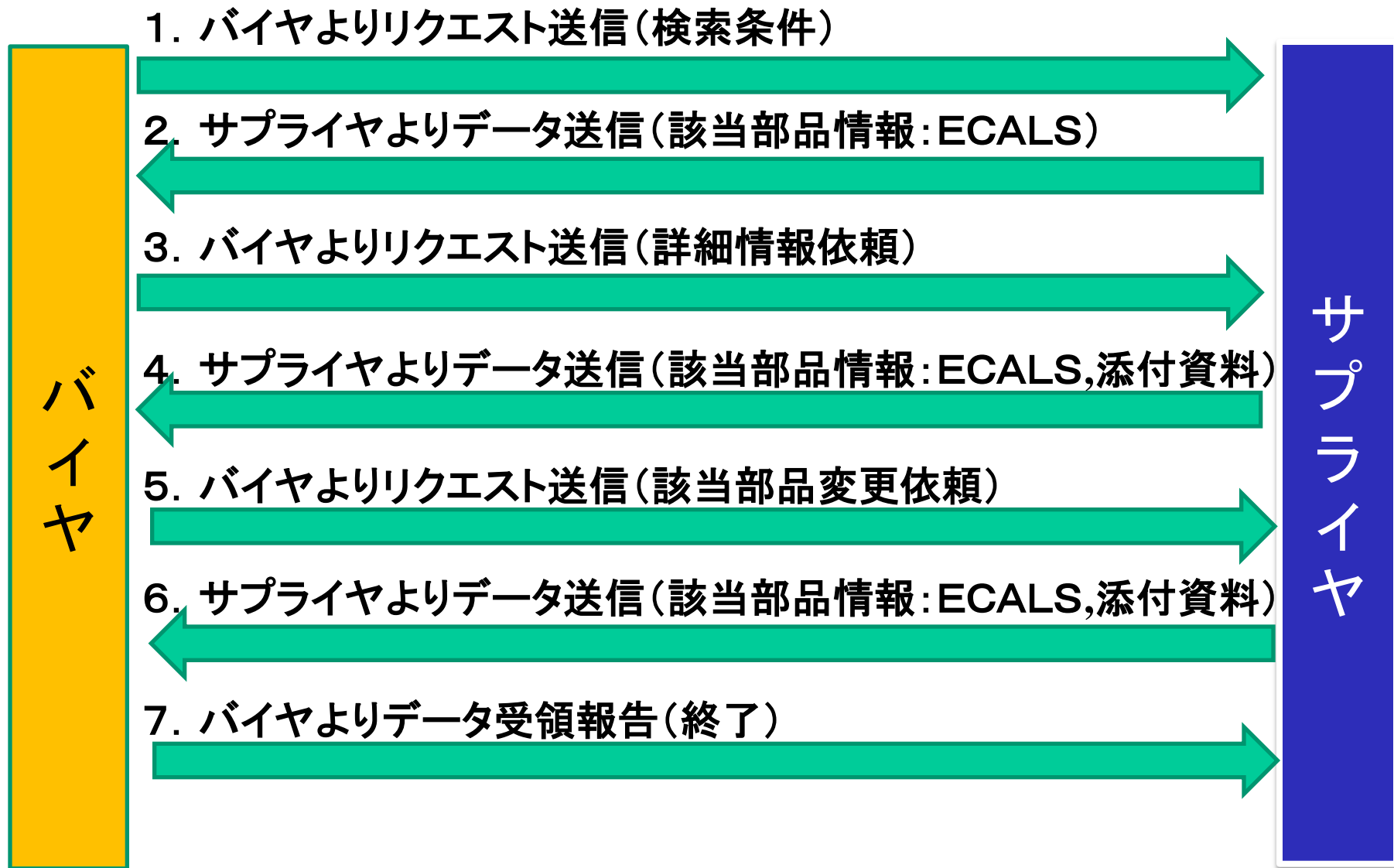
{ 基本型: 依頼—提供—終了連絡 }  
{ 拡張型: 依頼—提供—イベント—終了連絡 }



## 5-2. シナリオ例：バイヤからの部品検索（基本型）



## 5-2. シナリオ例：バイヤからの部品検索（拡張型）



# 6-1. 課題・要望に対する対応策 1

評価項目 (大分類)	課題・要望等	対応策
BtoB 交換実装環境の検証	ASP接続モデル及びASP間連携モデル	ブラウザのログインは問題なく進んだが、バッチ起動の環境としてプロキシ設定等の詳細がマニュアルにはなくASPのサポートで解決したが、導入時の課題である。 <b>【情報技術委員会】</b>
ツール群	XMLメッセージ作成支援ツール	InfoPath2007のみ対応とのことでoffice2007環境を別途用意をしたが、最新のofficeへの対応は必須。 -BD840からBD840を作成するパターンや回答時の送信者,受信者の入替等,入力 of の簡略化の工夫があればよい。 <b>【ECM委員会】</b>
	XML/CII変換ツール	正しく変換されずサプライヤから修正版の提供を頂いて使用した。 <b>【ECM委員会】</b>
	JEITA共通クライアント	プロキシ設定による接続エラーといった事例をコマンドのFAQにまとめるといった対応が必要。また、サーバ証明書の発行元CA情報をJEITAクライアントでバンドルしていない場合の対応方法についても対応をまとめる必要がある。 <b>【情報技術委員会】</b>
	ツール連携	XMLメッセージ作成支援ツールで出力したXMLファイルを、手動でXML/CII変換ツールの特定フォルダに移動のうえ、CIIタイプ別にバッチを起動させる必要があり、対象ファイルが多数になった場合に問題になる場合がある。 <b>【ECM委員会】</b>

# 6-1. 課題・要望に対する対応策 2

評価項目 (大分類)		課題・要望等	対応策
メッセージ	メッセージフォーマット標準	BD0830への回答時に、保存しようとする漢字の箇所に半角英語(型番や「String」が入っていて、これを削除しエラースキップしなくてはならなかった。	XMLメッセージ作成支援ツールでは初期値、ENUM値として正しい値を設定するようになっている。(間違った値のBD0830が送付されたことによりツールでエラーチェックにかかったものと思われる。) <b>【ECM委員会】</b>
	ファイル添付	運用標準上では、添付ファイル数は1つ(アーカイブ含め)ですが、複数ファイルを添付するとバイヤ側の接続ASPでは通過し、ASP間接続によりサプライヤ側のASPでは、1ファイルだけが届くケースがある。	通信上は複数添付ファイルの通信は可能にする。利用上の添付ファイル数の扱いは業務側で規定する。 <b>【情報技術委員会】</b> ECM標準では添付ファイルは1つとしています。(既に標準書、ガイドに記述済み。) <b>【ECM委員会】</b>
全体プロセスの評価	業務管理	実業務においては、TPA管理番号をユニークにセットする取り決めが必要である。	メッセージファイルの命名規約の推奨として、導入ガイドに記載する。 <b>【ECM委員会】</b>
	実験パターンの取決め	シナリオ番号により、データ交換フォーマットBD-0830(依頼・通知情報)と、BD-0840(回答情報)の使い分けが逆転するので、当該フォーマットの種類に明確にバリデーションをかけている場合は注意が必要。ビジネスドキュメントヘッダ、データ部の中の項目でも相当項目があれば同様	「再度回答を求める場合には依頼から始める」、「ワークフローは『受領』で終わる」、「ワークフローで使用するBDがわかる」ようにガイド等を修正する。 ・ツールに追加機能(回答→依頼変換等)を検討する。 ・ツールでの関連項目の論理的チェックが可能かどうかを検討する。 <b>【ECM委員会】</b>
その他	エラーの発生 業務面での評価	メッセージ「invalid filename」→ファイル名からアンダーバーをカット。メッセージ「指定された企業識別子に対応する企業情報がありません」→ビジネスコラブレイションID、ビジネスアクションIDを修正。後者については、エラーの特定に時間がかかった。メッセージがわかりづらかった。	「ビジネスコラブレイションID、ビジネスアクションID」は任意項目の為に今後は省略する事になる。 送受信のファイル管理には「技術情報依頼・通知番号の設定方法の推奨案」をガイド等に提示する。 <b>【ECM委員会】</b>
自由記述		ツールの種類が多く、使いこなすまでに理解をしなければいけない項目が多く簡単なものではなかった。 ・データの授受だけであれば、メールで送ることではないかと思ってしまうこの仕組みに改善が必要だと感じる。メール並みに簡単であるべき。	業務運用を絡めてシステム上の仕組みを改善する。 <b>【情報技術委員会】</b>

## 6-3. 考察

- ASPとコンテンツサービスとの連携 …◎
- JEITA共通クライアントによるファイル添付送信の実施。 …◎
- 前回実証実験より更新された、ビジネスドキュメント、ツールの改善効果 …◎
- 社内システムとの連携も確認 …◎
  
- 投資対効果の検証 ……△
- ツール解説書の整備 ……△
- ECALSコンテンツの提供体制 ……△

## 7. 今後の活動

ECALS公開型から個別交換(BtoB)対応へ

実証実験評価結果に基づき、各標準書の記述内容について再度確認を行い、必要に応じて改版を実施する。

更なる利便性向上を目的に標準化提案やツールの改修等を行う。

ご清聴ありがとうございました。